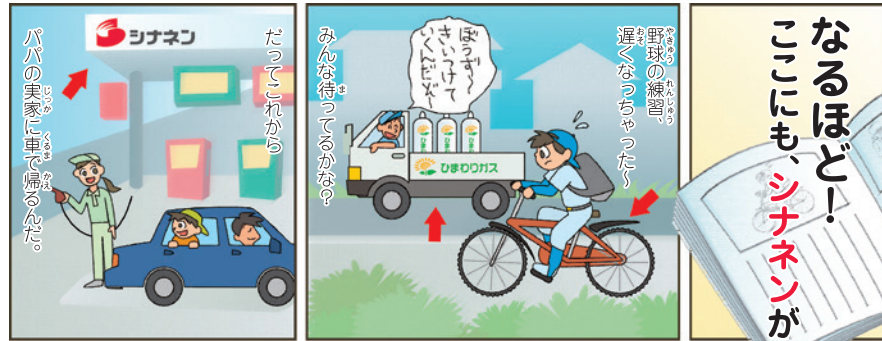


いつもありがとう

第1回作文コンクール入賞作品集 2007

選者 あさのあつこ / 尼子騒兵衛 / 森田正光 / 鈴木弘行 / 麻島陽一



こんなに、身近にあったんだ。ボクの街の『快適生活プロバイダー』



石油



LPガス



ハイカルシウム



リフォーム



自転車



洗濯機防水パン



無機抗菌剤
(消費スプレーに使用)



新エネルギー



水廻り事業

いつもありがとう 第二回作文コンクール入賞作品集(2007) もくじ

最優秀賞

「帰り道」 成沢 希望… 4

シナネン賞

「とっさんのやきそば」 石川 萌… 6

朝日小学生新聞賞

「はじめてのしんぶんはいたつ」 田丸 紗弥加… 8

優秀賞(5編)

「がんばってる、おとうさん」 菅野 美月… 10
 「ぼくのおかあさん」 伊濱 健朗… 11
 「コブの前身」 伊佐 碩恭… 12
 「ありがとう」 山下 野子… 13
 「いつもありがとう、お姉ちゃん」 丹下 花菜… 14

入選(15編)

「だいすきなパパへ」 後藤 紅葉… 15
 「なつやすみのおべんとう」 中谷 月… 16
 「お父さんの大きなあたたかい手」 中田 夢乃… 17
 「おじいちゃんありがとう」 佐藤 元春… 18
 「いつもありがとう」 石川 佳奈… 19
 「お母さん、本当にいつもありがとう」 遠藤 伊吹… 20
 「家族への感しやの気持ち」 丹羽 英人… 21
 「おばあちゃん、いつもありがとう」 西水 思音… 22
 「両親がつけてくれた私の名前」 秀田 奈津美… 23
 「大好きなお母さん」 鈴木 悠可… 24
 「第二の母」 辻井 理紗… 25
 「思い出いつばい」 兼信 勇輝… 26
 「おばあちゃんの梅干し」 今野 桃子… 27
 「お母さん、いつもありがとう」 義野 えいか… 28
 「恒例の稲刈り」 徳田 拓也… 29

佳作(20編)

「れいじのだいすきなままへ」 原口 滂次… 30
 「ママとかよったようちえん」 小澤 彩音… 31
 「おばあちゃんいつもありがとう」 藤田 友香… 32
 「大すきなおねえちゃん」 余川 未来… 33
 「お母さんありがとう」 山田 七海… 34
 「大すきなおじいちゃん」 石原 千夏… 35
 「『妹へ』生きていてくれてありがとう」 大重 礼… 36
 「病いんそつぎよう」 筒井 明子… 37
 「まいはすごい」 伊藤 将弥… 38
 「ママありがとう」 甲田 葵… 39
 「母さんありがとう」 小澤田 悠太… 40
 「じいちゃん大好きだよ」 宮本 香奈… 41
 「私のお兄ちゃん」 香川 知奈美… 42
 「私のお母さんとお父さん」 富岡 恵実… 43
 「おばあちゃんありがとう」 笹木 沙也佳… 44
 「大好きなんだよ」 梁瀬 実来… 45
 「おとうのようなお兄ちゃん」 森脇 未波… 46

「祖母と梅干しと私」 佐々木 桃子… 47
 「私の小さな赤いくつ」 野口 美由紀… 48
 「私と家族とお筆と」 松村 美咲… 49

団体賞(三校)

長野県 安曇野市立三郷小学校
 愛知県 扶桑町立扶桑東小学校
 大阪府 大阪市立生野小学校

選者あとがき …………… 50

あさのあつこ(作家)
 尼子驩兵衛(漫画家)
 森田正光(気象予報士)
 鈴木弘行(シナネン株式会社代表取締役社長)
 麻島陽一(朝日小学生新聞)

主催…朝日小学生新聞
 共催…シナネングループ
 後援…朝日新聞社
 ●応募総数二四、三七八作品の中から選ばれました。

みんなじろじろ兄ちゃんを見ている。おでこにいっぱい汗をため杖をつく兄ちゃんは、びよびよはねるようにして歩く。

デパートでぼくは兄ちゃんにほしかったおもちゃを買ってもらった。家からこの店まではずいぶんと遠いけれど、兄ちゃんはやくそく通り夏休みバスに乗って連れてきてくれた。

兄ちゃんは生まれたときから足が動かない。リハビリを重ねやっと杖をついて歩けるようになったが、こんなに遠くまで歩いたのは初めてだ。ぼくがとても心配になったのは、兄ちゃんが帰りはバスを使わずに歩こうと言ったからだ。

「お母さんにはバスに乗ったことにしよう」

帰り道、兄ちゃんは何度も日かげにこしを下ろして、吹き出してくる汗をふいている。ぼくもつかれていっしょにこしを下ろした。

「兄ちゃんジュース飲みたい」

兄ちゃんは困ったような顔をして百円玉をひとつくれた。

「百円じゃ買えないよ」

「そのホームセンターは百円だから、すきなジュース買っておいで、兄ちゃんはこちらで待っているから」

ぼくが、ジュースを買って帰ると、兄ちゃんは木の下で横になっていた。

「兄ちゃん、兄ちゃん」

何度声をかけても兄ちゃんは答えてくれなかった。ぼくはあわてて兄ちゃんのけいたい電話でお母さんと呼んだ。お母さんは真つ青になって車で飛んで来た。兄ちゃんに冷たいお水を飲ませるとまもなく起きた。

「ごめんなさい」

「本当にあなたはばかね」

家に帰るとお母さんはそう言ったけれど、それほどおこってはいない。兄ちゃんは無理をしすぎて、脱水しようじょうじょうになったそうさ。ぼくは兄ちゃんが買ってくれたジュースをコップに分けて持つてくる。

「うまいなあ。ありがとう」

ぼくのほしいおもちゃが高かったので、兄ちゃんは自分のおこずかいを全部使ってしまった。帰りのバス代がないから兄ちゃんは必死に歩いた。片道二時間もかかる道を、不自由な足でせい一杯がんばった。最後に残った百円までぼくのために使ってくれ、ぼくがこのことを知ったときもただ笑っているだけだ。

「そんなにがんばるなよ兄ちゃん」

と言いたいけれど、それよりも先にぼくは心の中で何度も兄ちゃんに、

「ありがとう」

と叫んでいた。

とっさんのやきそば

愛知県豊田市立四郷小学校二年

石川 萌

時どき土曜日のおひるに、とっさんがホットプレートでとっさんとくせいやきそばをつくってくれます。とっさんのやきそばには、ぶたにくとキャベツしか入ってなくて、わたしのきらいなにんじんやピーマンは入ってません。お母さんのやきそばはにんじんとピーマンが入っているし、

「りょうりは、スピードがいのちなんだよ。」

と言ってやきを大きく切ります。わたしはただ小さく切るのがめんどくさいだけだと思います。

とっさんとくせいやきそばはキャベツがほそく切ってあります。

「キャベツは、ほそく切るとめんどからまっておいしいんだよ。」

と、とくいげにはなをふくらまして言います。やきそばをつくるたびに言います。なんども聞いたのであきました。

それに、とっさんとくせいやきそばは、バリバリしていて、やきぐあいがちょうどですごくおいしいです。とっさんのやきそばは日本で二ばんおいしいと思います。

わたしはいつもおいしいやきそばをつくってくれとっさんが大すきです。とっさんはきよ年のおわりごろにとっせんお父さんになったので、てれくさくって「お父さん」とよべないけど、大すきだからいつかずと先になるかもしれないけど「お父さん」とよぼうと思っています。

はじめてのしんぶんはいたつ

千葉県千葉市立磯辺第一小学校二年 たまる さやか

お母さんが、1月のおわりころから、朝日しんぶんのはいたつのしごとをはじめました。こんなにさむいのにだいじょうぶなのかな？あさはやいのに、ちゃんとおきれるのかな？いろいろなかんがえてしんぱいになりました。つらかったらやめてもいいよと、おもいました。

おかあさんは、はじめのうちには、つらそうなきもあつたけど、がんばってしごとをつづけました。やく3か月ぐらいしたころから、しごとになれたようです。お母さんが、「夏休みになつたらいっしょにしんぶんはいたつにこうね。」と、いいました。わたしはうれしくて、早く夏休みになつたらいいな、とおもいました。

7月30日はじめてのしんぶんはいたつにいくことになりました。お母さんからはやくなないとつれていかないと、いわれていましたが、ふあんときんちようで、なかなかむれませんでした。でも30日の朝早くにお母さんとおき、しんぶんはいたつにいきました。そとはまっくらで、空にはまだ月やほしがみえました。どうろには、車や人どおりがぜんぜんなくて、ふしぎなかんじがしました。朝日しんぶんのしごとばについて、中にはいつたら、しんぶんがおもつたより多くてびっくりしました。

それからお母さんはじてん車の前とうしろにたくさんのしんぶんをのせ、わたしといっしょに、はいたつにいきました。わたしはまっくらでこわかったけど、お母さんにいっしょけんめいついていきました。かいだんをのぼったりおりたりつかれたけど、お母さんといっしょだったので少しのしかつたです。お母さんといっしょにしごとをしてみて、お父さんとお母さんはお金をもらうためにこんなたいへんなしごとをしているんだなあ、おもいおやにかんしゃのきもちでいっばいになりました。これからもお父さんお母さん体につけてしごとがんばってください。そしてまたわたしが、休みになつたらお母さんのしんぶんはいたつのしごとをてつだつてあげたいとおもいます。

がんばってる、おとうさん

福島県
川俣町立飯坂小学校一年

かんの み月

わたしのおとうさんは、二ねんまえにけがをして、くるま
いすをつかうようになってしまいました。

わたしは、おかあさんとおねえちゃんとしよに、よくおとう
さんのびょういんにいっています。おとうさんは、たくさんのびよ
ういんにかよって、一しょうけんめいあるくれんしゅうをしています
す。くるまいすからおりて、つえをつかっているくれんしゅうを
します。そのときのおとうさんのかおは、いえてしよにあそん
でいるときのかおとぜんぜんちがいます。「いたいけどがんば
るぞ。はやくあしをなおすぞ。」とていつているみたいです。

「おとうさん、あともうすこしだよ。がんばって。」
と、こえをかけると、

「うん。」と、わたしのほうをみて、おおきくへんじをしてく
れます。一しょうけんめいあるくれんしゅうをがんばっている
おとうさんをみて、わたしは「すごいなあ。」とおもいます。

まい日あるくれんしゅうをがんばっているの、おとうさ
んのあしは、すこしよくなっています。

しかし、いまもけがなおったわけではありません。で
も、わたしたちのために、まい日おしこもやります。よる
おそくまでがんばってくれています。トラックはうんてんで
きないけど、かいしゃのなかで、パソコンのおしごとをしてい
ます。わたしは、はやくおとうさんに、トラックのおしごと

をしてほしいです。

びょういんとおしごとでたいへんなのに、やすみの日には、
こうえんやおかいものにつれていってくれます。しよにゲー
ムもします。しよにあそんでいるときのおとうさんのかお
は、とってもやさしいかおです。

いえてしよにあそんでいるときは、くるまいすからおりて
います。くるまいすのかわりに、あしにはすべりどめをつけ
ています。あるくときには、すべりどめと手すりにつかまっ
て、一ぼあるきます。かいだんをあがるときは、とても
たいへんで、わたしもお手伝いをするときがあります。
そのときにおとうさんに、

「ありがとう。」

といわれると、とってもうれいきもちになります。

いつもわたしたちのために、一しょうけんめいなおとうさ
ん。なににでもがんばるおとうさん。そんなおとうさんが、
わたしはだいすきです。

これからも、おしごとがんばってね。やすみの日には、いっ
ぱいあそぼうね。

おとうさんありがとう。おとうさんだいすきだよ。

ほくのおかあさん

徳島県
徳島市立加茂南小学校二年

伊はまけん二朗

ほくのお母さんは、ほくが行っている小学校の先生をしてい
ます。だから朝、

「行つてきます。」
と言つても、またすぐに、学校であいます。

おかあさんがいっしょの学校にいとべんりです。おもいに
もつをもつてかえる時は、こっそりおかあさんのところにおい
てきます。わすれものは、そつとかりに行きます。でも、ひみ
つがばれて、おこられることもあります。

おかあさんは、いえでは、ごはんを作つたり、せんたくやそ
うじをしてくれます。学校では、べんきょうをおしえたり、
クラスの子のせわをしたり、絵をはつたりして、いそがしそら
です。いえでは、ほくだけとあそんでくれているので、一年生
のとき、おかあさんがよその子と手をつないであそんでい
るのを見たとき、ちよとびつくりしました。いえのおかあさ
んと、学校のおかあさんは、顔がちよとちがうかんじがしま
す。でも、おかあさんは、どちもよくがんばっています。

きよ年のあき、おかあさんが、きゅうにびょう気になって、
入いんすることになりました。入いんするまえの日、おかあ
さんは、ほくのこをしんばいして、ノートにいろいろ書いて
おとうさんにわたしていました。

手じゅつのつぎの日、お見まいに行きました。おかあさん

のくびには、ほうたいがまいてあって、くびからチューブみたい
なものが出ていました。チューブの中には、ちがついていまし
た。ほくは、こわくておかあさんのほうを見ることができま
せんでした。おかあさんがしんでしまうような気もちがし
て、なみだが出ました。いえでも、学校でも、おかあさんがい
なくて、とてもさびしくて、元気がでませんでした。

おかあさんは、いまはもとどおり元気になって、いえでも学校
でも、うごきまわっています。ほくとおとうさんは、ときどき、
足ツボマッサージをしてあげたりします。おとうさんは、おか
あさんのお手伝いをいっぱいしています。ほくは、おかあさん
を大じにしてあげたいです。おかあさんのしんどいところをへ
らしてあげたいです。そして、百さいまで生きてほしいです。

学校では、本とうは、おかあさんのことも「先生」とよば
ないといけないけれど、ほくは一年生の時からずっと「おかあ
ちゃん」とよんでいます。まわりでは、びつくりする子もいる
けど、ほくのおかあちゃんだから、学校でもずっと「おかあ
ちゃん」とよびたいです。

おかあちゃん、ほくをうんでくれてありがとう。ごはんを
つくってくれてありがとう。やさしくしてくれてありがとう。
おこつてくれてありがとう。いっぱいいいいありがとう。

コブの中身

群馬県
群馬大学教育学部付属小学校三年

伊佐 碩恭

おばあちゃんの左あごには、でっかいコブがある。最初は目立たなかったけど、会うたびに、どんどん大きくなっていくのがわかった。赤ちゃんが生まれる時のお母さんのおなかみたいだ。ほくのおばあちゃんは、ここからずとはなれた、海の近くに二人で住んでいる。

「ゼーぜん気にしてないよお。もう七十五才だし、嫁に行くとわげやあないんだがら。」そう言て笑つてるけど、おばあちゃんはすこく気にしていると思う。だて、いっしょに写真をとる時、いつもほくの右側に来て、左側をむくのを知つてるんだ。出来上がった写真を見ると、横目でらんでるみたいで、ちよつとこわい。本当はすこくやさしいのに、何だか変だ！

おばあちゃんは、一人暮らしのもつと年を取つた人たちにご飯を作つて届けたり、畑でとれた新せんな野菜をみんなにくばつてゐるんだ。ポラソテアで、小学校に行つて、野さいの作り方も教えている。今日は、海でとってきた青のりと大豆を入れて、きねでおモチをついたんだつて。その豆モチは、明日の朝、ほくの家にも届くらしい。でも、そんなのはいいもので、おばあちゃんはおせちとか、かしわもちとか、もどりがつおのつけとか、季節のおいしい手作り料理を、毎月届けてくれるんだ。それに、（ひろちゃんえ）とむかし風に書いてあるふうとうには、いつもやさしいおうえんの手がみが入つてゐるから、すこくうれい。

優秀賞

ありがとう

三重県
津市立白塚小学校六年

山下 野子

わたしが今一番「ありがとう」を言いたいののは、おばあちゃんです。

おばあちゃんは、いつもやさしくしてくれますが、改めて「ありがとう」と言いたいののが、二人きりのときのこの言葉です。

「あなたはあんだでええんやで、お姉ちゃんのマネせんでええんやに。」

わたしには二つ上のお姉ちゃんがいます。勉強、スポーツ、音楽、美術、お姉ちゃんと比べると、わたしにはいつも勝てるものはないと思つています。そのくらいお姉ちゃんには、集中力、やりきる力があるのです。わたしにはそれがありません。ですから、お母さんには、

「どこの家の子も上の子は集中力があるけど、下の子はねえ。」

と言われてしまいました。大好きなお母さんに言われ、腹が立つたけど、言い返せない、そんなわたしがありました。

そして、上の子に生まれなかった自分に腹が立ち、そんなことは、自分勝手だとわかっているけど、しょうがなく、イライラしていました。そんなとき、おばあちゃんに、この言葉をかけてもらい、びつくりしました。

おばあちゃんの大きなダンボール箱を開けると、プリンといいにおいがするけど、それは、海や土のにおいに、おばあちゃんのやさしい心がたつぷりまざつたにおいだと思つてゐるよ。

この間、東京でほくのお祝いの会があつた時、おじいちゃんやおばあちゃんも来てくれて、写真をたくさんとつたんだ。家に帰つてプリントしてもらつたら、おばあちゃんはカメラをまつすぐ見て、とつてもうれしそうに笑つていた。ほくの右側だけじゃなく、左側でも後ろでもすつと笑つていた。れいのお大きなコブもはつちりうつっているけど、（ほくのおばあちゃん！）つて感じのいつもの笑顔で、ちつともこわくない。いい感じ！うれしかったよ。すぐに電話で、

「写真が出来たから送るね。すこく良くうつてるから、コブなんて気にしないでいいよ。もしかして、また嫁に行くつもり？」つて言つたら、おばあちゃんは大笑い。今度会つたら、「おばあちゃんのコブの中には、やさしい気持ちや親切心がたつぷりまつてるんだから、コブもおばあちゃんなんだよ。」つて、ほくの気持ちを教えたい。そして、

「いつもおうえんしてくれてありがとう！」つて。おばあちゃんの顔を見ると、何だかはすかしくて言えないんだ。ごめんね。

ほくは、おばあちゃんのコブが、どんどん大きくなる理由がわかてるからね！

なぜ解つたのだろうと思ひました。

人には絶対に言わなかつたからです。表情に出ていたかな、ため息でもついていたかなと色々考えました。

その時に思つたのは、おばあちゃんは、わたしより70年も多く生きていて、たくさんの人を見てきている。そして、お母さんを育てたんだということです。

ふと気がつくと、その言葉に元気が出ている自分がいました。大きらいな自分にも、少しはいいところがあるんじゃないかなとか、お姉ちゃんより、二つぐらひはすぐれていることがあるんじゃないかなと考えていました。

そうだ、これからは人によつて「ありがとう」を言おうと思ひます。あたり前のことでも自分でやつてみると大変だからです。

おばあちゃん、気づかせてくれて、ありがとう。勇気をもりました。

いつまでも元気で長生きしてください。

おばあちゃんの信らいに応えられるように、「二つに」ありがとう。「これが、わたしです。」

いつもありがとう、お姉ちゃん

岐阜県
郡上市立川合小学校六年

丹下花葉

私は、事情があつて、お母さんとお父さんと別々に暮らしています。今は、お母さんのお姉ちゃんに、私と妹のめんどうをみてもらっています。

お姉ちゃんは、私たちに優しく、おごったり笑つたり心配したりしてくれるので、本当のお母さんみたいです。いつもおいしいご飯を作ってくれるし、どんなに疲れていても、そうじや買い物など、家のこともしてくれます。熱が出ると、家族とは別のご飯をわざわざ作ってくれます。約束もしっかりと守ってくれるし、マーゴや川などにもつれていってくれます。私は、そんなお姉ちゃんが大好きです。いつも自分のことだけではなく、家族を大切に、しっかりと支えてくれています。

そんなお姉ちゃんにも彼氏が出来ました。お姉ちゃんの彼は、私たちにもとても優しく、いろいろな所に遊びに連れていってくれました。そんな時、問題が起きました。それは、お姉ちゃんの結婚です。結婚するということには、私も妹も大賛成でした。お姉ちゃんは、結婚しても私たちのめんどうもみると言ってくれたけど、そうすると、美並にひっこさなくではいけなくなります。お姉ちゃんには絶対に幸せになつてもらいたいし、でも、ひっこしはしたくないし、とても悩ましました。私は、お姉ちゃんに幸せになつてほしいと思つたので、「ひっこしてもいいよ。」

入選

だいすきなパパへ

岐阜県
垂井町立垂井小学校一年

ごとうくれは

「ただいまー」げんかんのドアがひらき、だいすきなパパがかえつてきた。わたしともうとのかけっこのはじまり。ふたりでろうかをはしり、パパのとりあい。「ねえ、ねえ、パパ」きいて、きいてきようね。」とおはなしがつせんがはじまり、パパのあしにまとわりつくわたしたち。そんなわたしたちに「かべんしてくれー」といながら、ニコニコえがおのパパのめはほそくなっている。けつきよく、そのあと、パパのしよくじのときひぎのうえにはいつもいもうとがちゃんんとすわり、パパはごはんをたべにくそうにしている。わたしはそんないもうとをうらやましくおもう。

わたしのパパは、あさはやくから、よるおそくまでかかいてくれるかいしゃではたらいている。おしょうがつやおぼんやすみもほとんどないので、とおくへりよこうにはいけないけれど、パパはわたしのゆうがくしきやそつえんしき、うんどうかいにはおやすみをとつていっしょにさんかしてくる。ありがとうパパ。おやすみのひには、こうえんでボールあそびやじてんしゃのれんしゅうにつきあつてくれたり、えほんもよんでくれてありがとう。パパはギターが

と答えました。だけど、本当は心の中で「行きたくない。」と思つていました。せつかく仲よくなった友達とはなれたくないし、新しい学校に変わるの不安でした。そんな時、「お姉ちゃんは二人の気持ち一番に考えたいって言ってくれていたよ。」と先生から聞きました。私はすこくうれしかったです。自分の幸せが目のあるのに、私たちのことを一番に考えてくれたのです。何日も悩んだ結果、お姉ちゃんの彼氏が家に来てくれることになりました。お姉ちゃんは、本当はお嫁に行きたかったのだと思うとちよつと心配だけど、正直、ひっこせずにすんでよかったです。

しばらくして、お姉ちゃんは具合が悪そうでした。心配しているとお姉ちゃんから「実は、赤ちゃんが出来たんだ。」と聞きました。私は、びつくりしました。まさか、赤ちゃんができていたとは思わなかつたからです。その頃のお姉ちゃんは、えらそうで見えられませんでした。だけど、今は安定して、十一月の出産をまつばかりです。私にも、新しい家族が増えます。お姉ちゃんが、私たちを本当の娘のように思つてくれているように、私も新しい生命を大切にしたいです。そして、これからもお姉ちゃんの手伝いをしながら、お姉ちゃんのように家族を大切にしていきたいと思えます。いつもありがとう、お姉ちゃん。

じょうずなのでパパのひくギターにあわせて、いもうとといっしょにうたつたり、おどつたりするのが、わたしはだいすきです。

このまえ、パパがいつもとちがうこわいかおをして、「めがいたい。」といつてかえつてきましたね。いたみだすたびに「うー、うー」とさげぶこえがよなかじゅうきこえてきて、わたしはしんばいで、こわくなつて「パパのめがはやくなおりますように。パパがいつもえがおでいてくれますように。」といのりました。つぎのひにはいつものパパにもどつていたのであんしんしました。

だいすきなパパ、やさしいパパ、しことはすくなめにして、わたしといっしょにもつとたくさんあそんでね。そしてずつとづつとげんきでいてね。パパありがとう。

なつやすみのおべんとう

和歌山県
岩出市立岩出小学校一年

なかたにるな

「るなちゃんのおべんとうは、いづつもからっぽで、えらいなあ。のこさんとたべてくれるんで、うれしうよ。」

がくどうはいくからかえつてきたわたしのおべんとうばこをあけて、おかあさんがいました。

「おかあさん、いづつもおべんとうつくってくれて、ありがとう。」わたしは、おかあさんにおれいをいいました。

おかあさんのおべんとうは、いづつもおいしい。わたしはおかあさんにつくってもらったおべんとうをのこしていません。オムライスときも、チャーハンのときもありました。とつてもおもしろかったです。ごはんは、ふりかけもおもしろいし、うめぼしもおもしろかったです。おかずは、ウインナーやとんかつ、さけがすきです。

こまつなを、ほうれんそうとまちがえてたべたときもありました。おかあさんは、わたしががてなたべものもおべんとうにいれます。でも、みんなたべるとおいしいから、きんぴらごぼうでも、ひじきのものでも、なんでもたべられるようになりまし。

おかあさんは、ときどき、おとうさんと、じぶんと、わたしのみつ、おべんとうをつくりま。おとうさんのおべんとうは、いづつもからっぽで、おとうさんは、「こふんでたべおわる。」といっていました。そしたらおかあさんが、

「こふんでつくれやんの、もうちよとあじわつてたべてよ。」つて、わらいながらいました。

おかあさんは、まいにちしごとでつかれているけれど、がんばつておべんとうをつくっています。あせをかい、わたしたちのおべんとうをつくっています。

たまごをわつて、たまごやききにあぶらをひいて、たまごをやいて、そのなかにかまぼこをいれてまきます。たまごのきいろと、かにかまぼこのあかが、とつてもきれいです。「るなちゃん、ミニトマトとつてきて。」

「はい。」

にわのプランターでそだているミニトマトは、りんごみたいにあかいです。みどりは、プロッコリーやきゅうりなどです。ハンバーグやコロッケは、ちやいろです。ぶどうはむらさき、のりやこんぶは、くろです。おべんとうのなかには、いろんないろがあつて、からだのなかでいろんないようになるんだなあとおもいました。

わたしは、おかあさんにいいました。

「にがてなものでも、がんばつてたべよ。だつて、おかあさんがいっしょうけんめいつくってくれた、おべんとうやから、おかあさんありがとう。」

「こちこそ、いづつものこさんとたべてくれて、ありがとう。」これからもよろしくね、おかあさん。

入選

お父さんの大きなあたたかい手

大阪府
大阪信愛女学院小学校二年

中田 ゆめの

わたしのお父さんは、とてもやさしくて、大きなあたたかい手をしています。わたしは、そんなお父さんの手が大好きです。

この間、わたしがねつを出した時の話です。とても高いねつで、わたしがぐったりしていると、お父さんがわたしをだいて、お母さんと「しょにびよういんへつれて行つてくれました。びよういんからかえて来ると、お母さんがのみのをよういしている間に、お父さんがベットにわたしをよこにしてくれました。そして、大きな手をわたしのおでこにあてて、「ねつよ、ねつよ。とんでけえ。」とおまじないをしてくれました。

そしたら、ふしぎなことに、体が楽になつて来ま。その夜も、お父さんとお母さんは、わたしのおでこをなん回もひやしてくれました。

それに、だるくなったわたしの足を、お父さんがずっともんでいてくれたのです。

わたしはその時、

（お父さんもおしごとでつかれているのに、ねないでわたし

のかんびようをしてくれて、やさしいなあ。）

とおもいました。

ねつはすぐに下がつて、すっかり元気になりました。

お父さんが、

「元気になつてよかつたね。」

とニコリしながら言いました。わたしはうれしくて、おもうずお父さんにだきつきま。

その時のお父さんの手も、あたたかくて大きくかんじました。

もしお父さんがねつを出したら、今どはわたしがお父さんのおでこに手をあてて、おまじないをしてあげたいです。

そしてわたしはこうおもいました。

わたしは大きくなつても、お父さんと手をつないで歩きたいなあ。大きなあたたかい手で、「はい」ばいだつてほしいなあ。

お父さん、いづつわたしを見まもつていてくれてありがとう。

おじいちゃんありがとう

福岡県
篠栗町立篠栗小学校 二年

さとう 元春

ほくたち三きょう弟とおじいちゃん、いつもいろんなところに行きまします。

ほくのおじいちゃんは、七十七さいです。とっても、元気です。春休みには、長さきのハウスステンボスに行つて、この夏休みは、かごしまけん、いぶすきにつれて行つてくれました。毎年、ほくたち四人だけでりよ行に行くので、おかあさんが、「なかよしだね。まるで、三じゅうしに一人ふえて、四じゅうしみたいだね。」

と言つてわらつていました。

でも、おかあさんからそんなふうに言われた時、ほんとうにそうだなあと思ひました。なぜかと言つと、いつも男四人で、りよ行がほうけんのようにだからです。

ほくが、ほうしをわすれた時のことです。ほくたちが、かごしまの空こうについて、リムジンバスでいぶすきにむかいました。そのバスの中に、ほくのほうしをわすれてしまいました。ほくは、ホテルのへやの中でほうしがないことに気づきました。ほくは、いつしゅうけんめいに考えました。どこでわすれたのか、ひこうきの中か、バスの中か、それともおとしたのかと考えました。

おじいちゃん、おにいちゃんたちが、バス会しゃや、空こう

にでんわをしてさがしてくれました。ほうしは、バスの中にありました。

ほくたちは、つぎの日タクシーで、とおまわりをしてほうしをとりに行きました。ほくは、おこられるかなと思つたけどおじいちゃん、おにいちゃんたちから、

「よかつた。よかつた。」

と言つてよろこんでくれました。

「ばん上のおにいちゃん、

「けいかくしてないところに行くのも、ほうけんのようにね。」と言つてたからです。

でも、このほうけんりよ行もおじいちゃんがつれて行つてくれないと、いろんなほうけんはできないと思ひます。

おじいちゃんには、いつまでも元気でもらいたいです。

これからも、ほくたち、

「四じゅうし。」

でなかよくほうけんりよ行をしたいと思ひます。

おじいちゃん、いつも楽しいほうけんありがとう。

入選

いつもありがとう

兵庫県
川西市立北陵小学校 三年

石川 佳奈

早くおばあちゃんみたいに上手になりたいです。

おばあちゃんのおっぱいは下のほうにあります。わたしは、おばあちゃんのおっぱいをときときさわります。するとおばあちゃんはこのこ笑っています。わたしがさわった中で一番やわらかくて、一番気持ちがいいおっぱいです。さわったときはいつも、長生きしているおっぱいだなあとと思ひます。おばあちゃんと呼んでいるけれど本当はひいおばあちゃんです。おばあちゃんは九十才です。わたしの十倍くらいです。せんそうにもあつているのに、生きててくれて良かったと思ひます。

おばあちゃんはおさいほうがとてもとくいで、パッチワークで手さげぶくろやかべかけ、ポーチを作つてくれます。

わたしが一番うれしかったのはお手玉です。中にはあずきとたびのこはぜが入れてあります。おばあちゃんはお手玉のことをおじやみと言ひます。おじやみは、しゃんしゃんととてもきれいな音がします。まるでサンタクロースのそりが来たみたいで、何度も鳴らしたくなります。そしておじやみをくれたとき、遊び方やお歌を教えてくださいました。とてもむずかしくて、わたしはなかなか上手にできません。

ときときおばあちゃんと旅行に行きます。歩かないといけない所は、おばあちゃんは車いすに乗ります。お父さんが押すことが多いけれど、ときときわたしも押します。もつともつと押したいけれど、まだわたしは小さくてあぶないのでがまんをしています。おばあちゃん、病気になるないで百才を過ぎてみずつと元気で行ってください。そしたらずつとわたしがおばあちゃんの車いすを押します。

お母さん、本当にいつもありがとう

京都府
ノートルダム学院小学校三年

遠藤 伊吹

ぼくのお母さんは、今の時代にめずらしく五人の子供のお母さんです。

お母さんの日は、とても急がしくてたいへんです。毎日、ぼくが起きるより、ずっと早い時間に起きて、家族みんなの朝食の準備をしてくれます。

ぼくが起きる頃には、おみそ汁のいいにおいが台所の方からただよってきて、とても安心する様な、ほっと温まる様な、幸せな気持ちでいっぱいになります。

ぼくの家族の中では、どんなに急がしくても、体調が悪くない限り、一日の始まりである朝食は必ずみんなでいたたく事が約束になっています。

毎朝、家族そろって元気に目覚める事ができて、食たくを囲める事に感謝し、今日も十分に力を発揮し、元氣ばい楽しく、有意義な日であります様に、願いながら食べています。

お母さんは、二年の計は元旦にあり」を引用し、「二日の計は朝食にあり」という位、一日の初まりである朝食はととても大切だと、口ぐせの様に言っています。

朝食を食べ終わると、家族七人それぞれ身支度を整えて、出発します。

お母さんは、銀行に勤めています。ぼくは、何度か、銀行で働いている姿を見ますが、制服をキリッと着て、窓口でお客様と笑顔でお話をしていたり、たくさんのお金をお

うぎの様に広げて数えたり、キーボードをすばやくたたいてオペレーションをしている姿は、とてもかっこいいです。家でお母さんと、顔つきが全然違います。

夜は、ぼく達五人と一緒にお風呂に入り、それぞれ今日あった出来事を、笑顔で聞いてくれます。

お母さんをふくめ、六人で入るお風呂はとげもぎやかで、楽しいです。

お母さんは、お料理も上手で、まほうの様に大変手際良く、さつさと七人分の食事を作ってしまうです。ぼく達兄弟妹も野菜の皮をむいたり、玉子を割ったり天ぷらの衣をつけたり、配ぜんのお手伝いをしたりしています。

毎日みんな、夕食を作るこの時間も、ぼくはとっても楽しいです。

また、お母さんはぼく達がねる前にさつさつ本を読んでもくれます。登場人物に合わせて声を変えて読んでくれたり、感情をこめて読んでくれるので、聞き入って夢中になってしまい、かえって眠れなくなってしまう事もあります。

ぼくは、こんな素敵なお母さんが大好きです。お母さんの子供として生まれる事の出来たぼくは、幸せです。これからも、五人兄弟妹で力を合わせて、お母さんのお手伝いをしっかりとしていきたいです。

お母さん、本当にいつもありがとう。

入選

家族への感しやの気持ち

三重県

四日市市立内部東小学校四年

丹羽 英人

去年のゴールデンウィークの前に、

「お父さんが、かん国へ転きんになったの。かん国の家の近くには、日本人学校がないから、げん地校に通うことになるわ。」

と、お母さんから聞いた時、ぼくはとてもショックだった。それを考える度に、なみだが出た。それでも、かん国語をおぼえて、げん地校でがんばるしかない、あきらめていた。

しかし、それから何日かして、お父さんとお母さんが、「げん地校に通うのがいやだったら、日本に残ってもいいんだよ。」と、言ってくれた。ぼくは、お父さんとはなれて生活するの

がぜつ対にいやだったから、毎日ものすごくいやなんだ。でも、やっぱり日本に残ろうと決めた。なぜなら、かん国語のじゅ業では、ぼくはとてついてもついでいけなかつと想ぞうできた。それに、かん国語をおぼえるまで、一日中、だれとも二言も話せないし、まわりの人が話している事も全く分からないと思つたからだ。図書室へ行つても、本も読めないだろう。そんなのつてもがまんできない。それから、ぼくが、かん国語を一生けん命におぼえている間に、日本の勉強がどんどんおぼえてしまふのが、特にいやだった。それで、ぼくとお母さんと弟は、日本で今まで通りの生活をするこつになった。

この前の春休みに、ぼく達は、かん国のお父さんの家へ遊び

に行つた。四日市の家にいた時は、家事は全くしないお父さんだったのに、引き出しの中の洋服は、きちんとたたんで入つていた。お父さんは、ゆず茶を飲み終わると、すぐに自分の使つたカップを、台所へあらに行つた。ぼくは、お父さんががんばつているなと思つた。弟は、まだ三才だったので、「どうしてずっとここにいられないの。」

と、お母さんに聞いていた。お母さんが、その理由を説明すると、少しさみしそうな顔をした。そんな顔を見たら、ぼくも何だか悲しくなつた。

ぼくは、ぼくの学校のために日本に残つて、お父さんとはなればなれの生活をしてつてお母さんと弟に、心から感しやしている。それから、かん国へ単身ふにんしてつたお父さんにも、とても感しやしている。ぼくは、自分の学校のために日本に残つたのだから、これからも勉強をがんばろうと思つた。そして、大人になつたら、そんなけいするお父さんのような人になつて、今のぼくの家族みたいに、たとえはなればなれになつてしまつても、いつも心はつにまとまつてついる、そんな温かい家族を作りたいと思つた。今は少しさみしいけど、こんな生活も、いつかぼくの家族の思い出となる日が来るはずだから。

お父さん、お母さん、理人、ぼくのために本当にありがとう。

おばあちゃん、いつもありがとう

兵庫県
西宮市立広田小学校四年

西水 思音

ようやく金剛山の頂上に着くと汗だくの私がほっとしたしゅん間、オレンジ色に光る点を持つ黒いチョウが目の前を横切った。太陽の光にキラキラ輝いて、光のつぶをまいているように見えた。

「あれがアサキマダラだよ。」

と、祖母が言った。特別な花が咲いた時に南の国から渡って来る大変珍しいチョウだ。

「思音と歩くと、めったに見れない鳥や虫に会えるね。」
祖母が汗をふきながら、にっこり笑った。登山の疲れが消えて行った。

私の祖母は自然が大好きで、しょっちゅうハイキングをしている。私のも、よく野鳥観察や山歩きに誘ってくれる。祖母の作るお弁当は最高に美味しいけれど、歩いている間はとてもしびしい。最初はいつもとちがう祖母にとまどっただけれども、私のことを一人前の登山仲間だと扱ってくれているんだ、と分かっただけからはほこらしい気分になる。この夏、金剛山に登った時には、滝のそばの崖をロープをつたって歩いた。台風の後だったので、なぎ倒された木もあり、歩くたびに足元の砂利が転がり落ちて、私は緊張で汗びしょになりロープを持つ手が固まった。「ぐずぐずせんとしつかり歩け。」

と祖母が前を向いたまま言った。私は歩ずつ力をこめて歩いと。とどん川を逆上る。ついに岩の間から水がしみ出してい

る所まで来た。冷たくて自然の味がする、すき通ったきれいな水だった。これがあの汚い大和川の源流だと祖母に聞いておどろいた。この透明な水を、どうやったらあんなによこしてしまえるんだらう。祖母が川の汚れについて、色々なことを教えてくれた。私は人間の生活が自然におよぼす悪いえいきょうについて知ってショックだった。家族にも教えたくて、水筒にこの水を入れて帰った。

祖母は自然の中になると元気がわいてくるらしい。学校やおけいこでがんばって時々疲れてしまう私を、自然の中へ招待してくれた。そこはたくさん鳥や植物、虫のいる心はずむ世界だった。祖母はまるで図かんの様に何でも知っている。祖母に教わって、私は家族で二番自然のことを知っている。私も自然のおいをかぐと、わくわくして、背筋が伸びて、体中の空気がきれいになるような気がする。自分が新しくなったように感じる。私を自然の中へ連れて行ってくれた祖母には、いつも心の中で「ありがとう。」と言っている。これからも祖母といっしょに自然を感じていけば、祖母はずっと元気でいてくれると思う。私は、祖母を元気にしてくれる自然を大切にしたい。いっしょに過ごす時間を大切にしたい。ずっといっしょに楽しみたい。

おばあちゃん、いつもありがとう。

入選

両親が付けてくれた私の名前

奈良県
河合町立河合第三小学校四年

ひで田 なつ美

「なつみ」この名前は、両親が考えて付けてくれた大切な名前です。

「なつちゃん」

家族からも友達からも、私がおこってたって、泣いてたって、楽しかったって、みんながいつでも「なつちゃん」とよんでくれるのがうれしいです。両親がみんなに「なつちゃん」でもらっても、好きになってももらいたかったから付けてくれた名前だからです。

いつも明るい私の家族は、けんかもしたりおこられることもあるけど、私はやっぱり家族が大好きです。お父さんは、家族のために、いつも働いてくれています。休みの日は外で遊んでくれます。お父さんといっしょに遊んでいると楽しいです。家のお手伝いもしてくれるやさしいお父さんです。お母さんは、宿題で分からない事があつたら、いっしょに考えてくれます。毎日、家族の健康の事も考えて、毎日ごはんを作ってくれるやさしいお母さんです。弟は、私がお母さんにおこられて泣いている時、いっしょにお母さんにあやまってくれたことがあります。いっしょに遊んで

くれたり、私がピアノを練習している時は、しずかにしてくれる大切な弟です。

私はすごくショックな事があつても、「なつちゃん大丈夫だよ。次はがんばれ」って家族がそう言ってなぐさめてくれるから大丈夫です。

だから私はうんでくれて、「なつみ」という名前を付けてくれて、大切に育てていってくれている両親が大好きです。

私は、こんなやさしい家族を大切に、いつまでも、「いつもありがとう。」と言う気持ちをやさしいようにしようと思います。

大好きなお母さん

静岡県
熱海市立第一小学校 五年

鈴木悠可

私の家は旅館をしています。なので、旅館にはやはりおかみさんが必要です。だから私のお母さんはおかみさんをしています。

その仕事はとても大変です。まず午前中は部屋の、花をいけたり、旅館の広間でやっている食事どころはときどきテレビでもとりあげられることがあるので12時すぎぐらいだといそがしくて手伝いに行かなきゃなりません。午後は家事をやっています。私は、お母さんと買い物に行くとき帰りの荷物を持って帰るとかならずお母さんは軽い荷物ととり変えてくれます。夜は、お客さんの所に行つてお話ししたり、はいせんをしたり、あいさつをしに、お客さん全員の所に行きます。それにととき板前さんをやったりもしています。朝は兄の部活のために、早く起きてまず朝ごはんを作りお弁当も作ります。そのあと、着物を着てお客さんをお見送ります。このようにお母さんの一日は私たちのためになくなつてしまっています。

そこで私は夏休みの間、お皿洗いをすることにしました。やつてみると、まず、フライパンや大きいボウルを洗う

時、泡がたくさん飛んで来たり、その泡が洗った物についてやりなおしたりごまめに洗ったりふいたりしないと洗った物がどんどん落ちてきてしまつて大変です。それに家はみんなご飯の時間がばらばらだから、一かい洗つても二、三回洗わないと終わらないのでとても大変でした。

洗たく物を干してもみえました。お父さんの大きいズボンを干すのにととても苦せんしました。そのまま干すとせんとく物が地面についてよごれてしまうのでとてもこまりました。それに、まどを開けているのでクーラを使えなくて、とつても暑い中やっていました。私は冬は、洗たく物がぬれているから指がとつてもつめたいだろなー。と思いました。こんなことをお母さんは毎日やっているんだなー。と思いました。

私は手伝いをしてあらためてお母さんがすごいなー。と思いました。これからはお母さんにめいわくをかけないように、家事を手伝つていきたいと思っています。お母さん！毎日、毎日本当に、ありがとう！

入選

第二の母

千葉県
千原市立白金小学校 五年

辻井理紗

私には第二の母がいます。それはお母さんの姉で本当ならば、おばさんと言うのだから私がお母さん産まれた時まだ二十一才だったのでネネとよんでいます。ネネはすごく明るい人でお笑い芸人の友近に似ています。私の顔に落書きをしたり、パソコンで色々なテーマパークのページを開いて、その画面を私に見せながら体を動かして乗り物に乗っている気分にしたたり、すごくくだらないにんだかとも楽しくなります。そんなネネの周りにはいつもにぎやかな笑い声でいっぱいです。

私のお母さんは何も出さない人です。料理もさいほうも下手です。だから私は何でもネネにたのみます。体その服の名ふだを付けてもらつたり、ぼうしのゴムをなおしてもらつたり、ご飯を作ってもらつたり、おやつを作ってもらつたりします。おやつはたまに失敗してまずい時もあるけど、食べれないほどではないので「まあ、いっか。」とあきらめます。なぜならばお母さんが作るよりは全然上手だからです。私はネネと一緒に住んでいなければ毎日すくすくまずい料理を食べるしかないからです。お母さんは私に

「ネネがいなかったら二人共やせちゃうね。」と言います。私もそう思います。

いつも出かける時はネネが運転して連れて行つてくれます。

「りさが行きたいって言うなら、どこにでも連れて行つてあげるよ。」と言います。だから私は行きたい場所をネネに言います。すると、私がわすれたころにとつ然、朝起こされて行き先も教えてくれないまま車に乗せられます。

「どこに行くの？」と聞く。「近所のコンビニはあきたから、ちよつと遠くのコンビニまでたばこを買いに行くから付き合つて」と言われます。私の本気になっていると着いた所は私が行きたいと言つた場所だったり、

「○○に行くよ。」と言われて車に乗つたのにそこではなく私の行きたい場所だったりします。サブライズドライブです。私はこのサブライズドライブが大好きです。

お母さんと私はよく

「ネネが結こんしたらこまるね。」と話します。とつてもやさしくしておもしろいネネだから幸せになつてもらいたいけど結こんしてこの家からいなくなつてしまつたら私にとつてもこまるしさみしいです。ふくぎつな気分です。でも、そんなネネは三十二才になった今でもまだかれ氏もいないので結こんする気配はありません。しばらくは私の第二の母でいてくれるみたいです。私が大きくなつたらおん返しをしたいです。今までありがとう。これからもヨロシクネッ♡

ぼくは、今年の夏休み、トルコのカッパドキアという所に連れて行ってもらいました。カッパドキアで、地下都市といういせきに行ったり、奇岩のギユレメ博物館に行ったり、気球に乗ったりしました。ぼくのお父さんはトルコ人で、日本人のツアーのガイドの仕事をしています。それで、カッパドキアには年に何回も来ているそうです。

夏休み、ぼくはトルコに着いた次の日に、お父さんが予約してくれていた飛行機に乗ってカッパドキアに行きました。空港からミニバスに乗ってどうくつのホテルに行きました。お父さんは力持ちで、スーツケースやキャリーケースを二度に持ち上げて運んでくれました。ホテルの人はみんな知り合いで、ニコニコお父さんにあいさつをしていました。お父さんは家族が日本から来たんだとうれしそうに話していました。どうくつのホテルは、名前の通りどうくつをくりぬいて作ってあって、すずしくて、おもしろくて大好きになりました。こんなめずらしいホテルにとまれたのもお父さんのおかげです。

次の日、レンタカーを借りて車を走らせていると、あちこちに知り合いの人がいました。店の前を通る時や赤信号で止まった時にも知り合いの人がいると声をかけて、また、家族が日本から来たんだと話していました。ぼくは、ここがお父さんのがんばって仕事をしている場所だということがよくわかりまし

た。また翌日、ぼく達は早起きして気球に乗りました。気球のそうじゅう士のおじさんもお父さんの知り合いです。気球は時間ぐらい乗りました。その間お父さんは、家族や景色の写真やビデオをいっぱいとってくれました。

ぼくは今年の夏休み、お父さんが仕事をしている場所に連れて行ってもらって、お父さんが人々の間でどんなに感じよく仕事をしているのかよくわかりました。ぼくが日本で学校にいつている間お父さんはトルコで仕事をしてお金をためています。そして、夏休みになるとあちこちにぼく達を連れて行って、多くの思い出を作ってくれます。お父さんが会う人ごとに、うれしそうにぼく達のことをしようかいしているのを見て、ぼくはうれしくなりました。今までふつうにお父さんがしてくれていると思ってたことも、よく考えてみると二人でトルコにいて、ぼく達のためにとてがんばってくれるのがわかってありがたいなあと思いました。今は、ぼくは勉強や運動や小さなお手伝いをがんばることしかできないけど、大きくなったら、家族のためにいろいろなことをしてあげようと思っています。

お父さん、いつもありがとう

ぼくが大きくなったら、今度はぼくが旅行に連れていつてあげるね。

入選

おばあちゃんの梅干し

宮城県
柴田町立東船岡小学校 五年

今野 桃子

「うーん、すっぱい。」
今日も、私は、梅干しを食べています。私は、おばあちゃんの作った梅干しが大好きです。おばあちゃんは、丸森に住んでいます。

「おいで、じゅくしたよ。」
という連絡が入ると、毎年、梅を取りに家族でおばあちゃんの家に行きます。おばあちゃんは、その梅を使って、おいしい梅干しを作ります。

おばあちゃんの梅干し作りは、だれかに教えてもらったのではなく、自分で、色々ためしながら今の味になったそうです。だから、おばあちゃんにしか作れません。

「この梅干しの味は最高。」
です。食べると口の中にすっぱさがひろがって、すっぱい顔になります。のどが痛い時、湯のみに梅干しを入れ、お湯を注ぎ、飲むと良くなり、元気になります。

梅干しを作っているおばあちゃんは、あまり梅干しが好きではありません。こんなにおいしいのに、と私はふしぎに思います。みんなが喜んで食べてくれるので梅干しを作っているそうです。

梅干し作りは、てまひまがかかります。まず最初に、取ってきた梅を、たるにうつし、きずのついた梅を取りのぞきながら、水で何度も何度も洗います。井戸水を使っているの

でも冷たくて、手がじんじんして、痛くなりました。おばあちゃんは、どの梅が良いか、悪いか、目でわかります。そんなおばあちゃんが、すごいと思いました。その他にも塩の量を工夫したり、天気の良い日には干します。梅干しは、すぐ食べると、すこくすっぱいので、一年たつたころが、ちょうどよく、まろやかな梅干しになります。来年が楽しみです。

そんなおばあちゃんも、今年の八月で七十才になりました。みんな、古希のお祝いをしました。私は、感謝の気持ちをごめてお花をわたしました。わたすとき、心の中で

「おばあちゃん、いつもありがとう。これからも体に気をつけて、いつまでも元気でいてね。もっともっと、いろんなことを教えてね。」

といつていました。おばあちゃんは、すこく喜んでくれました。それを見て、私もとてもうれしかったです。

私の夢は、おばあちゃんの梅干しの作り方を覚えて、おばあちゃんの味を出せるようになることです。そして、将来自分の子ども達に、伝えていけたらいいなあと思います。おばあちゃんの家にはたまにしか行けないけれど、自分にできることはたくさんお手伝いしたいと思います。

おばあちゃんおいしい梅干しを作ってくれてありがとう。いつまでも長生きして下さいね。

お母さん、いつもありがとう。

兵庫県
愛徳学園小学校六年

義野 えいか

一九五〇個。この数は、お母さんが私に作ってくれたお弁当の数です。私を通った幼稚園も、今通っている小学校も給食がありません。だからお母さんは、私のために九年間、お弁当を作ってくれています。夏休み、冬休み、春休みと、土曜日、日曜日、祭日を引いて、運動会や遠足の時のお弁当を足すと、だいたい今までに一九五〇個ぐらい作ってくれたことになりました。お母さんのお弁当は、私が大きくなるための必需品です。何故かというとお弁当は、私だけのためにお母さんが、作ってくれるものだからです。幼稚園の頃から思い出してみると、はじめは、小さな赤いお弁当箱に、動物の顔のピックが刺さったブチトマトや、かにやたこの形ウインナーや、キャラクターの絵がついているかまぼことかが色とりどりに入っていて、いつも開けるのが楽しみでした。そんな可愛いお弁当は、小学校四年生くらいまで続きまして。

私が五年生になると、食べる量も多くなってきたので、お弁当箱もすこし大きくなりました。たこさんウインナーは、めつたに顔を出さなくなつて、その代わり、食材の種類が増えて、見た目よりも量と質が変わつていきました。お母さんのお弁当は、今まで同じパターンのもので、一度もありません。いつもなにか工夫してあつて、今でも、お弁当を広

げる時、ワクワクします。お母さんは、スーパーマーケットに買い物に行く時、「お弁当に入れる食材を買いに行つてるよなもののね。」と、よく言います。

お母さんは、毎朝5時に起きて、料理をしてくれるのです。私がお母さんの作ってくれるおかずで大好きなのは、山芋のてんぷらです。食べると、中がシャキシャキしていて、とても美味しいです。海老ピラフも大好きです。お母さんは「海老に工夫しているのよ」と言います。ネギや細かく切ったハムがいっぱい入った出し巻き玉子も、とても美味しいです。わたしの体の事をいつも考えて、毎朝早く起きてお弁当を作ってくれるお母さんにありがとうと言いたいのですが、いつも朝は眠いし、登校前で私も、お母さんもばたばたしているから、なかなか言えません。それに、なんだか改まって言うのが照れくさいのです。私は立つ派な大人になつて、お母さんに恩返しをしようと思つています。お母さん、それまで待つていてね。

お母さん、いつもありがとう。

恒例の稲刈り

鹿児島県
鹿屋市立上小原小学校六年

徳田 拓也

小学校に入学し六度目の夏休み、それは同時に僕にとつては毎年恒例になつている母の実家の稲刈りの仕事が待っている。今年も母に促されるまま家族総出で出かけ、太陽が容赦なく照りつける中で作業となつた。

「こんな暑い中大変だけど、おまえたちが毎年がんばつてくれるからわつせいか助かるが。じいちゃんたちは年をとる一方やからなあ。」

と祖父が笑いながら言った。祖父は毎日外で仕事をしているせいか色が黒く、とても力持ちだ。ときには厳しくしかられることもあるが、元氣いっぱいの祖父が僕は大好きだ。「大丈夫、一生懸命がんばるからね。」

僕は、氣合を入れて仕事にとりかかった。祖父はコンバインでの稲刈りが増える中、少しでもおいしいお米を作りたいと二部の小さい田んぼだけはかけ干しをしていて。これは、「馬」という竹と木の棒で作つたものにバインダーで刈つた稲の束を二つつ丁寧の掛けてカラカラになるまで自然に乾燥させる方法である。

刈つた稲を干すのが僕たちの仕事だ。軍手をつけ長そでを着ているにもかかわらず、腰が痛かったり顔や腕・足の間から中がかゆかったり悪戦苦闘だった。休みたくても稲は次から次へと刈られていく。バインダーで稲を刈っている祖父の顔は真剣そのものだ。

へとへとになつたころ、お茶の時間がやってきた。僕はも

うのどがカラカラで、誰よりも早くジュースがあるところに行つた。冷たいジュースやおかしを食べると、まるで生き返つたように元氣になつた。

「よし、そろそろ始めようかね。」

という祖母の声で後半戦が始まつた。気温はますます高くなり、汗でびつしよりだったが、この稲が脱穀機でわらと実に選別され、袋の中に実が次々とたまっていく様子を想像すると疲れも吹き飛んでいくようだった。これが、何とも言えないほどの美しい新米として僕たちのお腹を満たしてくれるのだ。

もう一つ、僕には楽しみがある。それは、

「いつもありがとうね。」

と、祖母が二学年上がつていくたびに少しずつ増やしてくれるお小遣いである。祖父はいつもほくたちのことを優しく気遣ってくれる。疲れたけど、働くことと、それに対してもらえるお小遣いとの二重の喜びを体と心で感じられた二日だった。

祖父のおかげで僕たちは一年中おいしいご飯を食べることが出来る。ぼくは全てのこと感謝の気持ち忘れずに、もつともっと自分のできることに、例えば勉強やスポーツ、家の手伝いなどががんばらないといけない。

「じいちゃん、ばあちゃん、いつもおいしいお米をありがとう。また来年も頑張るからいつまでも長生きして元氣いっばいでいてね。」

佳作

れいじのだいすきなママへ

茨城県
水戸市立寿小学校一年

原口 れいじ

ほくは、しょうがくせいになつても、すこいままっこでみんなにわられます。ママがといれにいつても、

「ママ、ママ。」

おふろにはいつていても、

「ママ、ママ。」

ばばには、いつも

「れいじ、もうしょうがくせいなんだから、

いつも、ママ、ママ、いわないの。」

と、いわれます。それをまねして、いもうとのゆづきにもおなじことをいわれます。それでもほくは、ママがだいすきだから、きにしないで、

「ママ、ママ。」

といつています。でも、たまには、ほくもおともだちとあそんでいるときは、すこしはずかしいからママっこをいんたいしようかなと、すこしだけかんがえることもあります。

このあいだ、ばばに

「ママ、ママいつてたらママだつてたいへんでしよう。すこしでもじぶんのことをやればママだつて、らくなんだよ。」

と、いわれました。ほくは、ばばがいつていることは、ただしいな、とおもいままに、

「こんどから、あんまりママ、ママつていわないね。」

と、いいました。ママに

「なんで。」

と、いわれたので、ばばにいわれたことをはなすと、ママに

「べつにれいじがママ、ママ、いつたつてママは、たいへんじゃないよ。だいすきなれいじのことをいろいろやってあげるの

は、ほんたいにうれしいよ。おとなになればじぶんのことをやらなきゃいけないんだからいまは、いつばいままにあまえ

ていいんだよ。」

と、いわれました。

ほくは、ママのことをばをきいてうれしいきもちになりました。ほくはおとなになるまでまだまだじかんがあるからこれからもいままでみたいにママっこでいたいです。

だいすきなママいつもいつもありがとうございます。ママのこともよかつたよ。

佳作

ママとかよつたようちえん

愛知県
蒲郡市立蒲郡北部小学校一年

おざわ あやね

ママ、

4ねんかん、ようちえんへおくつてくれて

ありがとうございます。

それからおいしいおべんとうを

いつもつくつてくれて

ありがとうございます。

おいしかったよ。

わたしもぴかぴかの一ねんせいになったよ。

がつこうがんばるね。

がつこうはいえから

じぶんであるいていく

ママとはあさいつしよに

いけなくなつちゃう

さみしい？

ママはきつとさみしいよね。

いえからようちえんのげんかんまで

たつたらふんぐらいだけど

たのしいおもいでが

いつばいのこつているよ。

ありがとうございます。

ようちえんのとりの大きなおてら

まいあさ、おてらのののさまに

「ほんどうのののさま、

おはようございます」

といつしよにがつしょうして

あいさつしたね。

それからたくさんさんのきやはなにかこまれた

ようちえん、

あかいつはきのはなびらで

くびかざりつくつたよ。

またつくりたい。

こんどはママにつくつてあげたい。

またはながさくころ

いつしよにようちえんあそびにいこう。

ママといつしよにかよつたようちえん。

たくさんのおもいでができたよ。

おばあちゃんいつもありがとう

岡山県
倉敷市立万寿東小学校一年

ふじたともか

「ともちゃん」
わたしのおばあちゃんは、あうといつもニコニコしてわたしをよんでくれます。わたしは、このおばあちゃんのえがいが、大すきです。

わたしのお父さんとお母さんは、はたらいています。そこで、わたしが小学校に入るまえは、おばあちゃんのうちですごしていたこともあります。だから、おばあちゃんと、ずっといっしょにすごしてきました。お母さんが、しごとでごはんをつくるじかんがないとき、よくおばあちゃんは、ごはんをどけてお母さんをたすけてくれます。おばあちゃんのごはんは、いつも、やさしいあじがします。

よくおばあちゃんのおうちに行くと、いっしょにおかずをつくらせてくれます。まえは、フライをつくるときに、パンこを付けさせてもらいました。

「こうやって、パンこをつけて、ひっくりかえすんだよ。」
おばあちゃんは、やさしくおしえてくれます。おばあちゃんとはんをつくるのは大すきです。お正月には、あんこもちやまめもちなどの、おもちをいっしょにつくります。さいしょはうまくいかなかったけど、おばあちゃんに、こつをおしえてもらって、なんども、おもちをまるめてみると、
「ともちゃん、じょうずだね。」

佳作
大すきなおねえちゃん栃木県
上三川町立本郷小学校二年

よかわみく

わたしには、5つちがいの6ねんせいになるおねえちゃんがあります。

がつこうにあがつてからは、おねえちゃんのはんちょうでそのうしろをあるいてまいにちがつこうまでかよっています。はじめは、がつこうって「どんなところだろう」とふあんだつたのでおねえちゃんがいつもいっしょだったのでとつてもあんなでたのしくがつこうに行くことができました。いえにかえつても、いろいろがつこうのわからないことをおしえてくれたので、はやくがつこうになれることができました。

わたしは、いつもいえておねえちゃんとあそんでいます。ゲームをやったりトランプをしたりたまにおみせやさんごっこもします。いろんなことをおしえてもらいながらあそびます。とつてもたのしいです。

でも、あそんでいると、いつもすぐケンカになってしまいます。おねえちゃんが、わざといじわるするときもあります。わたしは、「やめてよ」とおつておかあさんのところに行きます。おかあさんは、
「わたしのことがかわいいからやるのよ」
と、わらっています。おねえちゃんもわらっています。でも、わたしは、おつているので、わらえませせん。すこしたつと、

とおばあちゃんが、ほめてくれました。おばあちゃんがほめてくれて、とてもうれしかったです。ほかに、おばあちゃんのごいところは、チョコキやセーターを、じょうずにあめるところです。わたしにも、キヤクターのついたチョコキやセーターをあんでくれました。わたしは、とてもうれしかったです。こんなあみものができて、おばあちゃんはずこいなあとおもいます。きんじょの友だちのお母さんたちも、それをきていると、「おばあちゃんがあんだの。すこいねえ。」とほめてくれます。わたしは、そのとき、なんだかじぶんがほめられたような、うれしいきもちになります。わたしも大きくなったらおばあちゃんみたいに、じょうずにチョコキやセーターをあみたいですよ。

おばあちゃんといっしょにごはんをつくらせていたら、わたしは、いつのまにか、ごはんをつくるのが大すきになっていました。こんどは、わたしが、おばあちゃんに、にくじやをつくらせてあげたいです。それから、おばあちゃんも、あおいろのふくが、とてもあつています。いつか、あみものをもつとれんじゅうして、あおいろのセーターをあんであげたいです。だから、ずつとげんきで、ながいきしてください。あばあちゃんのこと大すきだよ。おばあちゃんにあつてるときは、なかなかいえないけれど、おあばちゃん、いつもありがとう。また、いっしょにおりようりやあみものしようね。

ケンカをしていたことをわすれて、またなかよくあそびます。そしてまたケンカ。の、くりかえしです。かぞくのみんなはいつも、わたしたちを
「よればさわればケンカしてるね」

「なんでケンカをするのにあそぶの」とよくいいます。わたしもたまに
「もうあそばない」というときもあります。でも、やつぱりひとりであそんでもつまらないし、おねえちゃんとあそびたいし、いっしょにわらうとたのしいです。

わたしは、いもうとなので、なにかにまけたり、できなかったりすると、いつも、おつたり、ないたり、さわいだりしておねえちゃんをこまらせます。でも、さいごは、いつもおねえちゃんが、おりにことなります。たまにおねえちゃんだけおばあちゃんちにとまりに行くことがあります。そのときは、とてもつまらないです。はやくかえつてこないか、ずつとかんがえています。いっしょにいるとケンカばかりだけど、いないときもいいます。いつもいっしょにあそんでくれて、いろんなことをおしえてくれるやさしいおねえちゃんがわたしは、だいすきです。おとなになっても、いっしょにあそぼうね。

佳作

お母さんありがとう

北海道
天塩町立天塩小学校二年

山田 七海

わたしのお母さんは、うそつきです。

「今日は、夕ごはんまでにはかえつてくるよ。」と言ったのに、けつきよくねてからかえつてきます。それから、「こんどの日曜日は、あそんであげるよ。」と言ったのにしごとに行つてしまいます。

わたしのお母さんは、中学校の先生です。わたしが生まれる前からはたらいしています。だからわたしは、0才のときからほいくしよに行つていました。朝ほいくしよで、お母さんとはなれるのがとてもかなしかつたことを今でもおぼえています。

ある日わたしは、お母さんに

「しごとをやめて。」

と、おふろの中で言いました。どうしてわたしがそう言ったかというと、今までに何回もうそをつかれて、あそんでもらえなかつたり、いっしょにいてもらえなかつたりしてさみしい心でいっばいになってしまったからです。

お母さんは、かなしいかおで

「お母さん、しごとをやめたら、なみのすきな本、たくさん買えなくなるけどいいの。」

と言いました。わたしは、「買えなくなってもいいから、おねがひ、やめて。」と言いました。お母さんは、とてもやさしいかおで、

「わかつたよ。」

と言つて頭をなでくれました。

わたしは、その言はを聞いて、とてもうれしかつたけれど、もしかしたら、このやくそくも、うそかもしれないと思つていました。

それからしばらくして、お母さんが本とうにしごことをやめることを知りました。わたしは、とてもうれしかつたけれど、お母さんは、十二年間もつづけてきた先生のしごとをやめるので、かなしいそうでした。

さいごのしごとがおわつて、かえつてきたお母さんは、「これからは、すつと二緒だよ。」

と言つてくれました。

わたしは、この言葉を聞いたとき、

「お母さんのことを、うそつきだと思つて、ごめんさい。」と、心の中で思いました。

今のお母さんは、

「友だちの家にあそびに行くから、ケーキをやっておいてね。」と言つたら、やいておいてくれます。やくそくは、かならずまもつてくれます。

お母さんは、大すきなしごとをやめて、さみしいかもしれないけれど、こんどはわたしに、お料理や絵をいっばいおしえてほしいです。

今、「ばんうれしいことは、学校からかえつたら、お母さんが家においてくれることです。」

「ありがとうお母さん、大すきだよ。」

佳作

大すきなおじいちゃん

静岡県
沼津市立門池小学校二年

石原 千夏

わたしはおじいちゃんのことを大すきです。

おじいちゃんのすきな食べものは、おだんごです。おじいちゃんはわがしがすきで、わたしもわがしがすきで、すきな食べものがにいています。だからおじいちゃんがなにか食べていると、わたしもいっしょに食べたくなります。わたしとにいてるおじいちゃんが大すきです。

わたしが赤ちゃんのころ、よくおんぶして「雨ふりくまの子」のうたをうたつてねかせてくれたそうです。だから、わたしは「雨ふりくまの子」を聞くとおむたくなります。そして、いまでも、大きくなったわたしをよくおんぶしたり、だっこしてくれれます。いっばいあまさえさせてくれるおじいちゃんが大好きです。

おじいちゃんのおいは、がんばつてはたけでやさいをそだてているあせのおいです。やさいをそだてる時、

「おいしいやさいになあれ」

といっばいおもっているからあたまにいっばいあせをかくのかな。はたけに行く時に、わたしが、

「がんばつてきてね。」

と言つと、

「がんばるね。」

と答えてくれます。がんばつてはたけしごとをしているおじいちゃんのあせのおいが大すきです。

おじいちゃんは、わたしがねつを出したりすると、かならずお見まいに来てくれます。おじいちゃんが来てくれるだけで、やさしい気もちがつたわつてきてうれしくなります。だから、おじいちゃんのかおを見ると、わたしは元気が出てきます。やさしいおじいちゃんが大好きです。

小さいころからおんぶしてくれてありがとう。

いっばい「雨ふりくまの子」をうたつてくれてありがとう。いつもあせびっしょりになって、おいしいやさいをそだててくれてありがとう。

わたしがねつを出したりすると、せつたいお見まいに来てくれてありがとう。

いっばい、いっばいありがとう。わたしはおじいちゃんが「ばん大すきです。」

「妹へ」生きていてくれてありがとう

東京都
江東区立東川小学校 三年

大重 礼

「ピーポーピーポー」救急車の音が鳴りひびくお父さんお母さんがすこくあせている。ぼくの目からしずくが落ちた。目の前の妹は白目をむいて、ビクビクとけいれんをしている。「神様、妹を助けて下さい。」けれど神様はそんなにやさしくはなかった。なぜならば、ぼくの所に妹が帰ってきて、ぼくの知っている妹じゃなかったからだ。

ぼくの後をついてきて、ぼくのおもちゃをとって遊んでいた妹ではなく、目の前にいる妹は赤ちゃんに戻っていた。立つ事も話す事も食べる事も、そして笑う事さえできなくなっていた。

ぼくはつらかった。泣きたいくらいつらかった。でも少しでも妹にボクを思い出してもらおうと目線があわない妹にはくはたくさんはなしかけた。

妹にリハビリという生活が始まった。PTOTというリハビリで、トランポリンやブランコで訓練をするものだ。ぼくも時々いっしょにやつたりして遊んでいる。妹は少しずつ笑いがでてきた。

時々お母さんを取られた気分になる時があるけど妹がぼくの顔を見て笑ってくれるようになったし、時々お母さんと二人でパフェを食べたりして妹にないしょにしているから。

「いいよ。お母さんをかしてあげるよ。」

妹は今、養護学校の一年生。頭の中はまだ二才ぐらいで、言葉も「あい」しかしゃべれなくて「はいはい」で移動するだけだけどぼくに最高の笑顔はすこくかわいい。

ぼくが、お母さんに叱られると、妹がぼくにキスをしてにこおと笑ってくれます。

プールが大好きで、二人でビニールプールに入ると「キヤーあい」といつて喜んでいるすがたにぼくもいっしょにはしゃぎます。でも、目をはなすと水を飲んだりすべっちゃやうのお兄ちゃんのぼくは大変です。

どんな姿でもぼくにひとつ大切な妹です。

世の中には、色んな人がいると思う。ぼくは妹の姿を見て医者になろうと決めました。

そして、絶対に妹をもっともつとよくしてあげようと思いました。

「お母さんがぼくに妹はお兄ちゃんのそばにいたかったから、病氣とたたかつてがんばつて戻ってきたの。ものすごい悪い病氣だったから、色々とられちゃったけど命が助かっただけでもすごいよ。本当にお兄ちゃんの事が大好きだからね」といった言葉を今でも覚えてます。たった二人つぎりの兄妹。

妹の笑顔で何度もはげまされている。それはぼくだけじゃなく家族みんなさうだ。妹の笑い声、笑い顔でみんなが明るくなつていつも楽しい。妹が障害をもつた事は家族にとつてもつらい事だけどそのおかげで家族はいつもつたよ。だから「妹へ生きていてくれてありがとう。」「これからもずつとつよいやうね。」「大好きだよ。」

佳作
病いんそつぎよう岡山県
倉敷市立船穂小学校 三年

ついつい 明子

「よくがんばったね。」

という、お医者さんのことばに、私はびつくりしました。お母さんは、

「先生、来年はもう、病いんにこなくてもいいんですか。」

と、しつもんすると、先生は、

「そつぎようですよ。」

と言ってくれました。

私は、とても小さく生まれました。体重は、千グラムぐらいで、ミルクがのめず、いきもできないので、生まれてすぐ、入いんしました。私は毎年病いんのみじゆくじ外来に、通っていました。今年の夏休みに病いんで、九さいの、はつたつけんさをしました。けんさは、だんだんむずかしくなってきました。でも、今年やつとそつぎようできました。お母さんは、

「ほんとうにがんばったね。」

と、言ってくれました。

今では、ふつうにごはんを食べることができます。でも、小さいころは、小さいスプーンさじくらいしか、食べられなかったのので、お母さんは、私をおいにかけて、食べさせていたそうです。

また、保いく園のころは、よく病氣をしたけど、今では元気になりました。

小さいころのことは、私はおぼえていません。でも、お父さんやお母さんは、何でも私のことを、おぼえているそうです。小さい時のことを聞くのが、とても楽しいです。

今の私は、ピアノをひいたり、工作をするのが大好きです。学校では、べんきようや友だちと遊ぶことが楽しいです。本を読むことや、ごはんをたくさんたべることが出来ます。今は、とても元気に大きくなりました。今の私があるのは、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、そして、お医者さんたちの、大せいの人たちに、たすけられたからです。こんなに、せいちょうして、うれしいです。これからも、元気にすごしたいです。

みんな、ありがとう。

まいは、す〜い。

ぼくがやりたくてもできないことを、へいきでやっつけてしまう。

夏休みに「オニヤンマをおいかけよう」の教室にさんかした時、先生が、

「シオカラトンボは、なめるとしよばい味がするから、その名前がついたというせつもあるんだよ。」

と、教えてくれた。ぼくは、たしかめてみたくなった。つかまえたシオカラトンボを、手にとり、顔を近づけた。

「やっぱり、むり。きもちわるい。」

ぼくは、つぶやいた。

すると、まいが

「お兄ちゃん、まいがなめてあげる。」

と、ぼくの手から、シオカラトンボをとった。

「なにも味がしないよ。」

と、言っつて、なめてしまった。

「やっぱり、なにも味がしない。」

体のいろいろな所を、なめていた。

す〜い、す〜い。ぼくには、できない。

でも、なめてくれてありがとう、まい。

ぼくは、スイミングの練しゅう中に、足のゆびをけがしてしまった。病院のしんさつ室から出てくると、まいが、目になみだをためてまっていた。

「お兄ちゃん、だいじょうぶ。いたくない。」

と、言っつて、ぼくの体をささえてくれた。ぼくより、四つも年下の小さな体で、ぼくの体を、いっしょうけんめいささえてくれた。こんどは、うれしくてぼくの目に、なみだがたまった。心配してくれて、ありがとう、まい。

まいは、

「お兄ちゃん、どうしたの。」

「お兄ちゃん、どこ行くの。」

「お兄ちゃん、あそぼう。」

いつもぼくのとをついてくる。いつもぼくのまねをする。

まいは、毎日のように

「お兄ちゃん、大すき。」

と、言っつてくれる。ぼくは、

「まい、大すき。」

と、声にだして言ったことは、ないけれど、本当は大すきだよ。

「まい、いつもそばにいてくれて、ありがとう。大すきだよ。」

と、声に出して言ってみようかな。でも、ちよっぱりはずかしい。

たまには、けんかもあるけれど、ぼくたちは、とてもなかよし。

いつでも、ぼくとまいは、いっしょ。

まいは、ぼくの世かいで、番だいじなたから物。

いつもありがとう。ぼくの妹、まい。

私は、ひみつつのポケットをもっています。小さいころから、大切なものはポケットにしまいなさいとママが言っていました。

「こまつた時、そつとポケットをたたいてごらん。きっと、はなを

まもつてくれるから。」そう言っつて、ママはいつもなきむしの私

をだきしめてくれます。

お友だちのれいちゃんと、自転車であそんでいたら、れいちゃんがころんでなきだしました。ひざからちがでて、とてもいたそうです。どうしたらいいのかわからなくて、私もいっしょになきました。

ポケットの中に手をいれてみると、ハンカチとあめ玉がはいっていました。5才の私には、とてもふしぎな出来事でした。

家に帰っつてママにきいてみると

「きつとかみ様からのプレゼントね。」

とわらっていました。

そして私は、小学三年生になりました。一度だけ、学校へなんか行きたくないと、思ったことがあります。その時ママは、

「おいしいもの食べに行こうか。」

と言っつて、私をえい画館につれて行きました。私は、びっくり

しました。それまでママは、私がかぜをひいた時も、ねつが39度ある時も、一度も仕事を休んだことがなかったからです。えい画をみながら、私の手をポケットの中でしつかりとにぎりしめてくれました。

「たまにはいいね。ずる休み。」

と言っつてわらうママが、はなは大好きです。

「ママ、ありがとう。明日から学校、いくからね。」

こころの中でつぶやきました。ママが、番大切にしているもの、

それは、私なんです。

佳作

母さんありがとう

秋田県
男鹿市立戸小学校四年

小澤田 悠太

ぼくは、今、四年生で、地元の小学校に通っています。ぼくは、耳が不自由なので、ほちよう器を付けています。ぼくが、今、こうして話せるのは、母さんのおかげです。

2才の時から、母さんは、言葉の訓練をうけさせるために、毎日ろう学校へぼくを連れて行ってくれて、家では、朝から夜ねるまで、ぼくに話しかけて、いろんな言葉を耳に入れていってくれたそうです。

そんな時に、ろう学校の先生に、こんな事を言われた事があつたそうです。

「耳が不自由でも、必ず話せるようになります。言葉のシャワーをずっと浴びさせると必ず……。それは、お母さんでないといけない事です。」

その言葉を信じて、母さんは、今でもずっと続けてくれています。

言葉の指どりは、家の中だけではなく、さん歩中・車の中買物先のパートでもやっていたそうです。母さんも最初は、周りの人に白い目で見られ、たえられなかったそうです。はずかしさは捨て、なによりもぼくを二人前にしなければという思いで、話しかけ続けてきたそうです。毎日、夜ねるころには、のどがいたく、声のかすれていたそうです。

そんな親のど力も知らず、ぼくは勉強するのがいやな時などは、耳のせいにしてしまいます。

「聞こえないから……。」

と言って、やらない時もあります。

そんな時、母さんは、まるで鬼のようにおこります。「耳が聞こえないから、勉強が分からない？それは、ちがう。何度も聞くと、分かるでしょう。聞く気持ち、覚えようという気持ちがないからでしょう。耳が不自由だって、何でもできる。耳のせいにするな。」

と言われます。そんなきびしい母さんに育てられ、ぼくは、今、四年生になりました。

今年の春から、スポ少の野球部に入りました。周りの音、かんとくの話が、聞こえない時もあり、不安になる事があります。でも、そんな時は、友達が助けてくれるので、ありがたいの気持ちでいっぱいです。母さんに、おこられた時や、学校で友達とけんかしたり、いやな事があつても、大好きな野球をやるとすっきりします。そして、また、がんばるぞという気持ちになります。

ぼくの目ひよりは、楽天のマー君のように速い球を投げ、ストライクをたくさん取れるようなピッチャーになることです。そして、母さんを喜ばせたいなあと思っています。

ぼくは、これからは、わがままですぐおこな所を直したいと思っています。そして、母さんも少しは楽になるかなあと思っています。

わがままで、いつも困らせてばかりでごめんね。そして、これからもよろしくね。

佳作

じいちゃん大好きだよ

茨城県
行方市立玉造小学校四年

宮本 香奈

今日も、じいちゃんが、わたしの事をよぶ声が聞こえる。

「かなー。かなちゃん。かーこさん。」

多分、たいした用事ではない。わたしは、

「じいちゃん、何か用。」

と聞く。すると決まって言う言葉がある。それは、

「じいちゃんかなちゃんの事が大好きなんだけど、かなちゃんはじいちゃんの好きかな。」

わたしはその場からにげるように、

「かなちゃんと旅行に行ったりごはんを食べに行くために、一生けん命仕事しているんだよ。」

と言いました。わたしはすぐうれしかったけど、じいちゃんの体の事が心配になりました。

毎日一緒にいると、あたり前すぎてなかなか言えないありがたいの言葉。なんとなく照れくさくて言えない大好きの一言。雨の日に学校まで、むかえに来てくれるじいちゃん。わたしが熱を出すと、

「悪い病気早くじいちゃんにうつれー。」
と言ってくれるじいちゃん。いつも、本当にありがとう。

わたしが、温泉に連れてつてあげるから長生きしてね。約束だよ。明日はすぐ言うよ。
「大好き。」

も、うそだとわかっていても、ニコニコしているじいちゃんお顔をみると、

私のお兄ちゃん

奈良県
橿原市立眞管小学校四年

香川 知奈美

私のお兄ちゃんは、口うるさく、よくけんかもいっぱいですが、とても家族のことを思ってくれるやさしいお兄ちゃんです。

私の家族は、お母さんが仕事で昼、夜働いているから大変です。だからいろいろなことをがんばってくれるお兄ちゃんです。

毎日ではないけれど二つ目にはがなばつていことは、お母さんがいない時の食事を作ってくれます。お兄ちゃんには、いやだいやだと言っているけれど最後にはおいしいごはんを作ってくれます。私は、お兄ちゃんのお手伝いをしてお兄ちゃんに役に立てたらいなと思えました。二つ目は、せんたく物をあらったり、ハンガーでほしたりしてくれることです。お兄ちゃんは、いつも、私がバスケットから帰ってきたら、私のきたないシャツをせんたくきの中に入れてあらいます。三つ目は米たきです。私は、米たきができないのでいつもお兄ちゃんがしてくれまます。お兄ちゃんが初めて米たきができたのがちょうど四年生の時だったそうです。私も、お兄ちゃんを見習って早く米たきができたらいなと思えました。四つ目はあらい物です。いつもお母さんが仕事に行っていないから、お兄ちゃんが毎日、毎日あらい物をしてくれます。お

かげでお母さんも、二つ仕事が少ないからよかったです

思いました。いつも、お母さんは、助かったと喜んでいました。私にはその言葉がうれしく聞こえました。五つ目は、せんたく物を取り入れたら、せんたく物をたたんでくれることです。せんたく物は私が取り入れて、お兄ちゃんがたむ役です。お兄ちゃんは、男の子なのにすごくきれいにたたんでくれるから、着る時、とても気持ちがいいです。お兄ちゃんは、お母さんに

「オレは、大人になったら、一人ぐらしができる。」とじまげに言っていました。私は、こんなに家のかじができるなら本当に一人ぐらしができるんじゃないかなと思えました。

お兄ちゃん、家のことをやってくれて本当にありがとう。いつもありがとうとしよう直に言えないけど感しやしています。お兄ちゃんは、お母さんをらくにさせてあげようと思つていと思つています。私もお兄ちゃんの役に立つようになりたいと思つています。

佳作

私のお母さんとお父さん

兵庫県
姫路市立勝原小学校五年

富岡 恵美

私のお母さんとお父さんはふつうに仕事もしているし、ふつうに生活もしている。なにより私と姉を産んで育ててくれた。

でも、お母さんとお父さんには手と足に障害をもった障害者です。

そのため、まわりからへんなめで見られたりもします。

でもあまり気には、していません。

しかし、私は小さいとき

「お母さんとお父さんがふつうの人だったらなあ。」

と、思う時もありました。

今は、あまり気にしていません。

お母さんとお父さんの笑顔を見ると、わすれられるようになったからです。

私のお母さんとお父さんは障害者のチームをもっています。目が見えない人、手が変形した人、足がわるい人、車いすの人、心ぞうがわるい人、のうがまひしている人、指が一本ない人などいろいろな人がいます。

その人たちもいろいろくふうをして野球をしています。

自分たちの病気に合わせて、バットをふるのも、ボールをとつて投げるのも、みんなくふうをしています。

私のお父さんも右手が変形しているので、ふる時も、ほぼ

左手だけでふつています。

とつて投げる時も、左でとつてグローブをぬぎ捨てて、左手で投げます。

そうゆうお父さんたちを見ているとそんけいします。

そうゆうお母さんお父さんでもなやみはあるそうです。

それは、やりたいことが自由にできないことだそうです。

ちようせんしたいことがあつてもちようせんできないことが多いそうです。

私のお母さんとお父さんは、体が悪いことにたいし、くふうしているともあればなやみもあるとゆうことです。

そんなこともありながら私と姉を育ててくれて、「ありがとう。」

おばあちゃんありがとう

新潟県
南魚沼市立栃窪小学校 五年

笛木 沙也佳

わたしが「一番」ありがとう」と伝えたい人は、おばあちゃんです。

わたしの家には、お母さんがいません。わたしが小さいころになくなつてしまつたからです。だから家事はみんなおばあちゃんがやっています。おばあちゃんは朝早く起きて、わたしの朝ご飯を作ってくれます。夜はおそくまで世話をしてくれています。おばあちゃんは、朝から夜まで、わたし達のめんどうを見ていてくれます。

でもわたしはそれを前までずっと、当たり前のように思っていました。わたしはよく妹とケンカをしていて、おばあちゃんはそのをよく止めにはいつていました。姉と妹という関係なので、わたしがおこられることが多かつたです。わたしはそれを差別と思つて反発していました。たまには、おばあちゃんにとつてひどいことを言つてしまつたこともありました。

おばあちゃんがわたしにご飯をもれとか、はしを持つてきてくれなど、たのむことがありました。わたしは聞いてないふりをしたり、わたしの妹がしたりしていたこともありました。そうではなくても少しイヤなことが多かつたからです。そのような時に、おばあちゃんは、「少しでも手伝いをしてくれ。」

と言うことがありました。でも、手伝いはしているのでそれ

で言い争いになつてしまうことも少しありました。

それでもおばあちゃんは、わたし達が遊んでいる時にげんかんのガラスをまちがつて石でわつてしまつた時、お父さんに自分がやつたとわたし達をかばつてくれたこともありました。それだけではなく、ある日の夜、お兄ちゃんがお父さんにすくしかられていた時に、お兄ちゃんを学校の方まで連れていったこともありました。ケンカしていた時、わたしをおこつたのも、姉なだけしかたなかつたと思つています。それにおばあちゃんは、

「お前がにくくておこるんじゃないよ。悪い子にしたくないからおこるんだよ。」

と、よくわたしに言つてくれました。

おばあちゃんは今年で七十八才なので、一人だけで全ての家事をまかせるのは大変だから、これからは少しでも手伝つていきたいと思つています。

いつもはとてやさしいけれど、おこる時はとてもこわいわたしのおばあちゃんは、母親に代わつてわたし達のためにいろいろ働いてくれています。口でははずかしくて言えないけれど、心の中では本当に「ありがとう」と、何度も思つています。

佳作
大好きなんだよ福岡県
明治学園小学校 五年

梁瀬 実来

本当は大好きなんだよ。こんなに簡単な言葉なのに、こぞという時に、どうして出せないのかなあ。

ふたつ上の姉とけんかをする度、いじ悪な言葉ばかりがホースで勢いよく水をまくみたいに出てしますのです。私が生意気な態度で傷付くようなことを言つてしまう度に、それで姉が最後には悲しそうな顔をしながら、わざと折れてくれる度に、本当は大好きなんよって、今伝えなきゃと思うのに、とても大切な言葉はいつもの奥でつかつかつたように止まつてしまうのです。まるで心の精と言葉の精までけんかしているみたいなのです。

昨年のクリスマス前、大好きだつた祖父がなくなりました。私達姉妹をまるで日だまりのようにあなたかく包んでくれる祖父でした。まだ若かつたのでまだまだずつと一緒の色んなことが出ました。まだ若かつたのでまだまだずつと一緒の色んなも山登りも男の料理作りも出来なくなつてしまいました。新幹線で広島に帰る度、改札口でいいよというのに、きまつてホームまでむかえにきてくれて、スピードの落ちてきた新幹線のまどをキョロキョロしながらのぞきこんで私達の姿を探してくる祖父を見るのが楽しかったです。ホームで祖父の姿を見つけると二番に走つていつて飛びつきました。だけでも二度と抱きしめてもらえないのです。なみだがあとからあとから出てきます。祖父に言いたいことが沢山あつたのに、もう

どんなに声をはりあげても届きません。寒しかったね、肩もんであげようか？ ビールついであげるね。寒くない？ またパジャマのズボンにシャツいれて・・・

その時、ふと手をにぎられました。姉でした。姉も泣きすぎて目が真っ赤になつて、まぶたがはれていました。祖父の写真の前で二人で手をつないで泣きました。こらえていたけれど、姉が手をつないでくれたとたん、わあわあ泣きました。姉もわあわあ泣きました。

八月の終わりに北九州では、夜中ものすごいかみなりが明け方まで続きました。ベッドでふとんにくるまつて、うつぶせになつてまくらを上から押し当てても家中がふるえるほどの音で、こわくてこわくて泣きそうでした。その時、姉がこつちにおいでと自分のベッドに入れてくれました。ひとつのふとんで姉のうでと太ももがくつついてると、こわくなくなつていつのまにかねむっていました。

私が悲しかつたりこわかつたり困つたりしていると、姉はそつと助けてくれるのです。姉がいるから笑えることなんてキリがないほどです。姉がいたから学校で守られていたことも感じます。ただ素直になれないのです。

本当に伝えたいことつて、思うほど簡単に口に出せなくて、だけどちゃんと届けたいから、はずかしいけど

「お姉ちゃん。ありがとう、大好きよ。」

佳作

おとうとのようなお兄ちゃん

三重県
名張市立蔵持小学校 五年

森脇 未波

わたしには三さい年上のお兄ちゃん、一さい年下の弟がいます。最初弟じゃなくて、妹の方がかわいし、たくさん遊べるからいいと思ったけど、弟は、お兄ちゃんにつき合ってゲームをしたり、外で遊んでくれて、弟だからこそできること、言えることがあるから、今は弟に感謝しています。

私のお兄ちゃんは、「知的障害」があります。だから体は大きいけれど、気持ちは、ふわふわ年長さんみたいな気持ちです。だから、相手をするだけでつかれてしまうから、たまにその気持ちがおさえきれなくて、きつい言葉をお兄ちゃんにぶつけてしまう時もあります。

私はよく、お兄ちゃんがふつうのお兄ちゃんだったら、と考えてしまいます。お兄ちゃんは、つかれやすいから旅行や遊園地に行った時も、すぐに帰りがつたり、すわりこんで休けいしてしまいます。たまに家でレストランに行く時も、お兄ちゃんは、「回転ずし」がいい。」

と、聞きません。本当は、私は別の店に行きたいんだけど、お兄ちゃんの機嫌が悪くなるから、回転ずしに行く事になります。その店がこんでいたら、とても不機嫌になつて、いやな空気になるから、そういう時が私は、一番きらいです。そんな時、ふつうの家は、どうしているんやろう。ふつうの家

は、みんなもつと、のんびり平和に過ごしているんやろうなあと考えてしまいます。

お兄ちゃんも、お兄ちゃんなりにがんばっているし、すごくがんばっているのに、私はそれに気付いているのに、どうしてお兄ちゃんを、かばってあげられないんだろう。私も素直になれなくてお兄ちゃん、ごめんね。

私は、本当は、三人兄妹の真ん中のはずだけど、手のかかるわがままな弟が二人いるみたいです。でも二人とも、気持はやさしくて、お手伝いもしてくるし、初めての事も、チャレンジしていく勇氣をもっているの、案外たよりになる時もあります。そんな時は、少しだけ妹の気分になれます。

体は大きいのに、小さい子みたいにがんばれないお兄ちゃんだけど、動物をかわいがつたり、思いやりの気持ちがいっぱいのお兄ちゃんが大好きです。お兄ちゃんがいるから、やれない事もあるけど、お兄ちゃんのおかげで、気付く事や、できる事もあるから、それはそれでいいです。お兄ちゃんのおかげでこの家族がいるのです。お兄ちゃんのおかげで、この私があるのです。お兄ちゃんがお兄ちゃんてよかった。お兄ちゃん、本当に、ありがとう。

佳作

祖母と梅干しと私

神奈川県
川崎市立富士見台小学校 六年

佐々木 桃子

今年の夏も、祖母の家の庭にたくさんザルが並んでいた。中身は梅干しだ。

この梅干しは、まだ汁には漬かつていない。ただカラカラの塩がまわりに付いているだけのものだ。お日様のおいがかして少し温かい。

いつもこの梅干しを祖母は、私と妹といこの口に、ポイツと放りこんでくれる。塩っ辛いけど、とてもおいしい。いつもの祖母の味だ。祖母の家で過ごす夏休みのお楽しみだ。

ああ、こんな事を考えているだけで口の中がとても酸っぱくなつてくる。

祖母の梅干しとの出会いは、まだ離乳食のおかゆにのせてもらい食べていた頃だ。その時は、顔をくしゃくしゃにしていたと言う。

このように、梅干しと、赤ちゃんだった私との出会いは平凡だった。

しかし二年後、私は梅干しの味がわかる幼児に変身していった。ともかく梅干しがだいすきで、一粒でたくさんのご飯を食べた記憶がある。

祖母は梅干しを作っている時、いつも空を見て天気を気にしている。その様子は、まるで自分の子供を世話しているかのようにだ。

優しい目で、ていねいに二粒一粒を見ながら日に干す。

祖母の手のつめには、しその汁がしみこんでいてとても痛そうだ。私は祖母に、「指、大丈夫？」

と、声をかける祖母は、「なーんにも、痛くないよ。」

と、気にする風でもなく、笑いながら作業を続ける。そんな祖母の姿が私は大好きだ。

幼い日から今日まで、祖母の味は変わっていない。その味は濃く、とにかく酸っぱい。スーパーで売っている物よりも赤みが強く、小粒で、祖母の顔や手のようにシワシワだ。

私にとつて

「梅干しの味」とは、祖母の手作りのこの味しかない。だから祖母のこの味を受け継いでいきたい。私が作れるようになったなら、家族のみんなに食べてほしい。もちろん一番食べてもらいたいのは、祖母だ。

けれど、できるだけ祖母に作り続けてもらい、長く私に食べさせてほしい。

「ピンポン」

玄関のチャイムが鳴った。

今年も祖母の梅干しが届いた。おばあちゃん、いつもおいしい梅干しを、本当にありがとう。

私の小さな赤いくつ

栃木県
二宮町立久下田小学校 六年

野口 美由紀

八月になって少したったところ、私の家ではお盆をむかえる準備の大そうじをしました。私も二所懸命に手伝いました。その時に、げた箱のはじのほうから、ものすごく小さなくつが出てきたので、「これはだれのくつなの？」とおばあちゃんに尋ねたら、「このくつは、美由紀が赤ちゃんの時に、初めてはいたくつだよ。」と教えてくれました。そのくつをよく見てみると、ブーツのようにかかとの所が高くなっていて、普通の赤ちゃんのくつとはちがっていました。

私は生まれた時から体が弱くて何度も入院をしたそうです。「一歳を過ぎてからも、足首が弱くてなかなか歩けずに、何度もお医者さんに見てもらったそうです。その時に、お医者さんに、アドバイスしてもらって、お父さんがくつ屋さんで特別に作ってもらった物で、一足で二万円もしたくつだそうです。「この世の中に一個しかないくつなんだよ。」と教えられました。私にそのくつをはかせて、おばあちゃんと真岡のおばさんが毎日おさんぽにつれて行ったそうです。最初は、一人では歩けずにおばあちゃんとおばさんに手を引かれて歩いたそうです。おさんぽに行く時は、元気に歩くのですが、帰りになると、歩くのがいやになって立ち止まってしまったそうです。そういう時には、おばあちゃんとおばさんが交代交代で私をだいて家まで帰って来たそうです。私が一人で

歩けたのは二年と二カ月目になった時で、真岡のいとこのお兄ちゃんが来た時に「おいで、おいで。」をしたら初めて歩いたそうです。最初は七十センチメートルくらいしか歩けなかったのですが、だんだんたくさん歩けるようになったそうです。おばあちゃんは大よろこびをして、すぐに、お赤飯をたいてくれたそうです。お父さんが、仕事から帰って来てこの話を聞いた時には、大よろこびをしたそうです。それから、毎日おばあちゃんとおさんぽに行つて、歩く練習をして、しだいに長く歩けるようになりました。そしていつのまにか元気になってきたそうです。私はおばあちゃんに、この話を聞いた時に、うれしくなつて涙が出ました。そうしたら、おばあちゃんも、「よくこれだけに大きく育つてくれたね。」と涙ぐみながら話をしてくれました。

私は、このくつを私の一生の宝物として大事にとつておきたいと思います。そして私が将来、結婚して、子供ができた時や、その子に子供ができた時にこの話をしてやろうかなと思います。私はこのくつのおかげで、おばあちゃんやお父さんたちが、私の事を大切にしてくれたことを改めて知りました。私はおばあちゃんやお父さんに、「今まで大切に育ててくれてどうもありがとう。」と心の中で、お礼を言いたいと思います。

佳作

私と家族とお箏と

滋賀県
大津市立青山小学校 六年

松村 美咲

私は、二年生の四月に、広島県から滋賀県へ引越して来ました。二年半、父が単身赴任していたので、やっと毎日一緒にいることができる、初めはワクワクしていました。でも、住み慣れた家から離れ、ダンボールだらけのマンションに着くと、急に不安になりました。家族みんなでいる喜びよりも、姉妹以上に仲良くしていた広島の友達のことばかり考えるようになりまし。新しい学校にはすぐに慣れ、先生や新しい友達とも楽しく学校生活を過ごしていましたが、家に帰ると、なぜかさみしくなり、お別れの時に、みんなからももらったメッセージカードをカーテンにかくれては読み、涙をこらえては泣くようになりました。そんな私に気付いた母は、私がかわれてしまうようで、すごく不安になっていたそうです。

そんなある日、学校からオレンジ色の紙の真ん中に、不思議な楽器が書いてあるお手紙をもらいました。それは、お箏のコンサートのおさそいでした。すごく興味がわいてきて両親にたのんで、連れて行ってもらいました。そのお箏は、すごくすてきな音色で、キラキラとかがやいて見えました。私は一生懸命演奏を聞き、風にきけ、という曲を聞いた瞬間、私も弾いてみたいと思いました。両親が怖い顔をして、熱心に聞き入っている姿を見て、楽しくないのかと思つてしまったそうです。コンサートが終わり、父と妹・母・私の順に、

エレベーターへ乗りかけていきましたが、とっさに、「お箏が習いたいから、先生に、お願いして！」とさげびました。私のあまりの勢いに、みんなあわてて下りて、母と私は先生を探しに行き、それがきっかけで、お箏を習えるようになりました。私は、毎日楽しく練習し、いつの間にか泣く事もなくなり、お箏が上達するにつれて、いろいろな事に自信が持てるようになりました。

お箏を始めて四年のこの夏、広島県の福山市で開催される箏コンクールに挑戦しました。初めてお箏を聞いて感動した、風にきけ、という曲で出場しました。遊ぶことや、おやつを買うことも我慢して、毎日大好きな曲を一生懸命練習しました。そんな私を、お箏の麻植先生は熱心に御指導してくださいました。家族のみんなも出かけることなく、私の練習時間を見守ってくれていました。みんなの協力のおかげで、小学生の部で最優秀賞をいただくことができました。

エレベーターを下りて待つてくれて家族、お箏を買う時に、自分のお小遣いをためて出資してくれた父、お出かけを我慢してくれた妹、そばで見守ってくれた母、涙を流して喜んでくれた祖父母、優勝した瞬間、今まで感じた事のない喜びでいっぱいになりました。いつも私を支えてくれる家族みんなが得た賞のようでした。みんなありがとう！

選者あとがき

あさのあつこ「作家」

すばらしい作品が多く、審査するのが本当にたいへんでした。応募作品のすべてにドラマがありました。子どもたちが、まわりの人間に対してストリートで、素直で、まっすぐな気持ちで嘘でも照れでもなく、きちんと自分の言葉で書いていることに感動し、非常にうれしく思いましたし、自分自身が励まされました。

あまこ 駱兵衛「漫画家」

それぞれの作品はもちろんすばらしいのですが、作文に書かれているご両親やご家庭の姿に感動しました。また、おじいさん、おばあさんが子どもたちに与える影響力の大きさに驚きました。日本の未来もまだまだ捨てたものではないな、と感じました。迫力や素直さでは、低学年の作品が目立っていたと思います。

もりた まさみつ 森田 正光「気象予報士」

感動しました。

自分が小学生の時に、こんな立派な文章は書けなかったと思います。子どもならではの視点で物を見て、それを素直に文章にしているので読んでいても新鮮でした。審査をしていてとても楽しかったです。

すずき ひろゆき 鈴木 弘行「シナネン株式会社代表取締役社長」

作品を読ましていただいて、最初から涙してしまいました。書かれている文章も立派で字もきれいで、驚きました。子ども達に健やかに育つてほしいと思います、始めたコンクールですが、健康な子どもたちばかりでとてもうれしく思います。(どの作品が一番になりましたがおかしくないと 생각합니다。)

あさはた まゆみ 麻島 陽一「朝日学生新聞広報部長」

いろいろなコンクールで審査員をやらせていただいています。作品を読んだ後に、さわやかな気分になるコンクールはそんなに多くはありません。今までにない、素晴らしい作品ばかりがそろったと思います。みなさん、自分の感情に素直に書いているので、とても読みやすく、わかりやすく、その分感動が素直に伝わってきました。一番うれしかったのは、素直に「ありがとう」で言える子がこんなにたくさんいるって、わかったことです。

(順不同、敬称略)